

⑫公開実用新案公報(U) 平3-45333

⑬Int.Cl.⁵
B 60 P 3/00
A 61 G 3/00

識別記号 N
府内整理番号 7816-3D
8718-4C

⑭公開 平成3年(1991)4月26日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑮考案の名称 拡張部を備えた病院車

⑯実 題 平1-106836
⑰出 願 平1(1989)9月12日

⑱考案者 外山 和明 愛知県宝飯郡小坂井町大字伊奈字南山新田350 日本トレーラルモービル株式会社内

⑲考案者 竹下 敏保 愛知県宝飯郡小坂井町大字伊奈字南山新田350 日本トレーラルモービル株式会社内

⑳出願人 日本トレーラルモービル 大阪府大阪市中央区北浜4丁目7番28号
株式会社

⑵実用新案登録請求の範囲

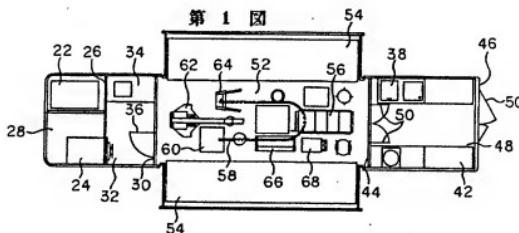
後部下部に走行用車輪を備えた車体の前部を、
発電機、等を収納する機械室となし、車体の後部
を、医療用機械、器具、薬品、等を保管する棚、
作業台、等を収納する準備室となし、車体の中央
部を、巾方向に伸縮自在な手術室にしたことを特
徴とする拡張部を備えた病院車。

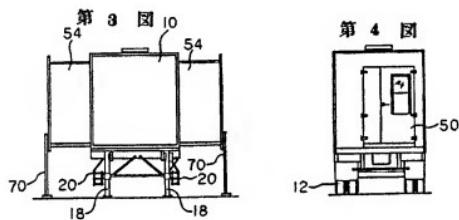
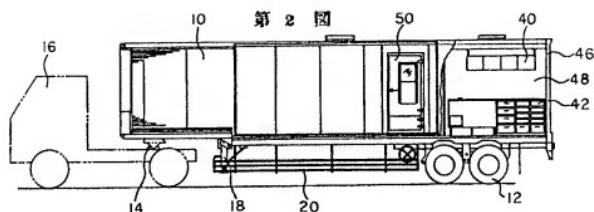
図面の簡単な説明

第1図は本考案をバントレーラに適用して手術

室を拡張した場合の内部平面図を示し、第2図は
本考案を適用したバントレーラの1部切欠側面図
を示し、第3図はバントレーラを拡張した場合の
前面図を示し、第4図はバントレーラを拡張しな
い場合の後面図を示す。

1 0 ……車体、4 2 ……保管庫兼作業台、1 2
……走行用車輪、4 8 ……準備室、2 2 ……発電
機、5 2 ……車体の中央部、2 8 ……機械室、5
4 ……副手術室。





公開実用平成3-45333

⑩日本国特許庁(JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報(U) 平3-45333

⑬Int.Cl.⁵

B 60 P 3/00
A 61 G 3/00

識別記号

N 庁内整理番号
7816-3D
8718-4C

⑭公開 平成3年(1991)4月26日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全頁)

⑮考案の名称 拡張部を備えた病院車

⑯実 願 平1-106836

⑰出 願 平1(1989)9月12日

⑮考案者 外山 和明 愛知県宝飯郡小坂井町大字伊奈字南山新田350 日本トレ

ールモービル株式会社内

⑮考案者 竹下 敏保 愛知県宝飯郡小坂井町大字伊奈字南山新田350 日本トレ

ールモービル株式会社内

⑯出願人 日本トレールモービル
株式会社
大阪府大阪市中央区北浜4丁目7番28号

明　　糸田　　書

1. 考案の名称

拡張部を備えた病院車

2. 実用新案登録請求の範囲

後部下部に走行用車輪を備えた車体の前部を、
発電機、等を収納する機械室となし、車体の後部
を、医療用機械、器具、薬品、等を保管する棚、
作業台、等を収納する準備室となし、車体の中央
部を、巾方向に伸縮自在な手術室にしたことを特
徴とする拡張部を備えた病院車。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、災害地や、交通事故の現地で緊急に
怪我人の治療、手術を行うことの出来る拡張部を
備えた病院車に関するものである。

(従来の技術)

病院設備から遠くはなれた災害地や、交通事故
の現地（航空事故等）で負傷者が出了場合、従来
のように救急車で病院まで運び治療、手術を行っ
ていると、本来助かるべき人も運搬中に命を落と

すこともあった。

この問題を解決する為に実開平1-82025に示されるように、後部下部に走行用車輪を備えた車体の内部に手術室を備えた緊急病院車があり、さらに本出願人による実願平1-28170に示される、輸送可能な拡張式手術用シェルターがある。

(考案が解決しようとする問題点)

上記実開平1-82025に於ては車体の最大巾寸法は法律で決められているので、内部の手術室の広さは必然的に限定されている。

一方、手術は通常数人で行われ、場合によっては相当な人手を必要とすることもあるので、手術台の両側には充分なスペースが必要であるにもかかわらず、以上のような不充分なスペースでは、満足な手術はできなかった。

又、上記本出願人による実願平1-28170に於ては、トラック、トレーラ、等に載置する必要があるので、取扱ができるだけ容易であるよう大きさ、重量に一定の限度がある為、手術に必



用な発電機、医療用機械、器具、薬品、等を保管する棚、作業台、等は別のシェルターで運搬していたので、実際に手術に取掛かる迄に相当な手数と時間を必要とするのが通例であった。

(問題点を解決するための手段)

ここに於て、本考案は以上の問題を解決するために、後部下部に走行用車輪を備えた車体の前部を、発電機、等を収納する機械室となし、車体の後部を、医療用機械、器具、薬品、等を保管する棚、作業台、等を収納する準備室となし、車体の中央部を、巾方向に伸縮自在な手術室にしたことを見特徴とする拡張部を備えた病院車、を提供する。

(実施例)

第1図は本考案をバントレーラに適用して手術室を拡張した場合の内部平面図を示し、第2図は本考案を適用したバントレーラの1部切欠側面図を示し、第3図はバントレーラを拡張した場合の前面図を示し、第4図はバントレーラを拡張しない場合の後面図を示す。

本実施例に示すバントレーラは、通常は六面体

の車体10の後部下部に走行用車輪12を備え、前部下部に突設した第5輪14が、鎖線に示すトラクター16の後部カプラーに回動自在に係合していて、停車時トラクター16との切離しが可能なよう補助脚18を備え、20はサイドバンバーである。

第1図に示すように、車体10の前部には発電機22と高圧滅菌器24が仕切り26によって収納される機械室28を構成し、さらに仕切り30によって消毒室32を構成し、流し台34を収納していて、出入扉36を備えている。

第1～2図に示すように、車体10の後部には超音波洗浄装置38、収納棚40、保管庫兼作業台42、等が仕切り44と後壁46との間に収納され準備室48を構成していて、夫々扉50、50を備えている。

車体10の中央部52、即ち前記仕切り26、と44との間の左右の両側壁は開口部を形成していて、本出願人による実願平1-28170に於て示されるように、この開口部と連通する副手術

室 54、54 が夫々車体 10 の中央部 52 内に収納される場合と、外部に伸びる場合とに任意に移動し得るよう設けられていて、これによって車体の中央部 52 は、巾方向に伸縮自在な手術室に構成されている。

本実施例に示す手術室には、移動可能な手術台 56、点滴レール 58、モニター 60、レントゲン 62、スポットライト 64、消毒盤台 66、機械台 68、等、手術に必要な物が備えられているが、これに限定されるものではなく、種々の場合に応じて備えられる物が変わることは言うまでもない。

特に、移動可能な手術台 56、点滴レール 58、モニター 60、レントゲン 62、スポットライト 64、等、は可能な限り広いスペース内を移動出来ることが望ましいので、本考案による副手術室 54、54 を夫々車体 10 の外部に伸ばすことによって車体の中央部 52 は、巾方向に大きく伸びて広い手術室に構成され、非常に都合がよい。

さらに、第 3 図に示されるように、副手術室 5

4、54を夫々車体10の外部に伸ばした際、支持脚70、70で支持することもある。

（効果）

本考案は以上の構成から成っているので、走行中は巾寸法を制限以内に縮小出来、災害地や、交通事故の現地で緊急に怪我人の治療、手術を行う場合は、本考案による副手術室54、54を夫々車体10の外部に伸ばすことによって車体の中央部52は、巾方向に大きく伸びて広い手術室に構成され、非常に都合がよい。



4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案をバントレーラに適用して手術室を拡張した場合の内部平面図を示し、第2図は本考案を適用したバントレーラの1部切欠側面図を示し、第3図はバントレーラを拡張した場合の前面図を示し、第4図はバントレーラを拡張しない場合の後面図を示す。

10：車体

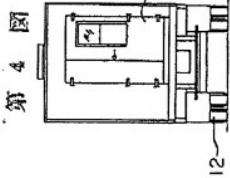
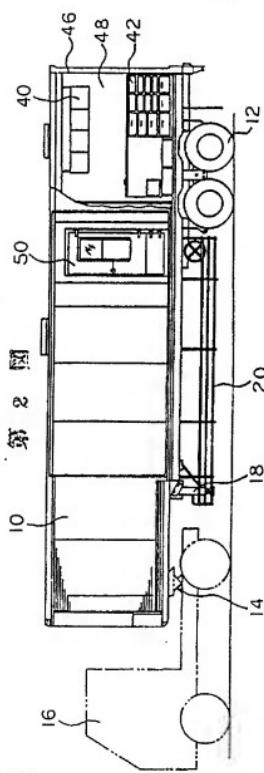
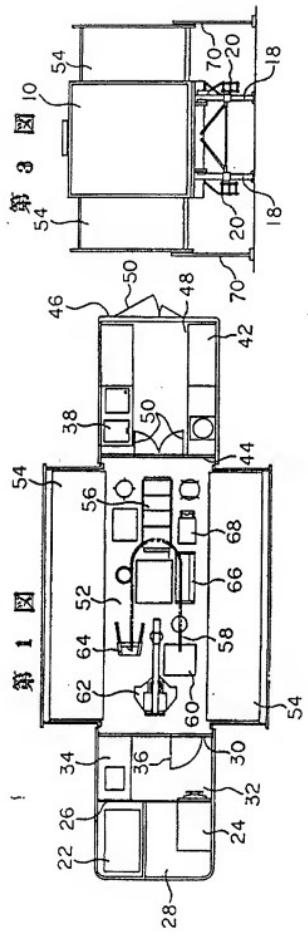
42：保管庫兼作業台

12 : 走行用車輪 48 : 準備室
22 : 発電機 52 : 車体の中央部
28 : 機械室 54 : 副手術室



出願人 日本トレールモービル株式会社

公開実用平成3-453331



453

1-2-2

出願人